

こだま

福岡小児歯科集談会会報

第 40 号
発行 令和 4年3月31日
発行者 会長 二木 昌人
福岡市中央区薬院4-1-26-2F
ふたつき子ども歯科
TEL:092-523-7560
E-mail:fc-dental@san.bbiq.jp

巻 頭 言

小児歯科柏木医院 50年の歩み

小児歯科柏木医院 柏木 伸一郎

九州で初めて小児歯科を開業

父が九州で初めて福岡市天神に、小児歯科を開業したのは1974年約50年前でした。それまでは名古屋でやはり小児歯科で開業していたのですが、スタッフのことや体調のことなどあり、故郷九州が恋しくなったと思います。当時私は大学3年でしたが、父と一緒にテナントを見て回ったのを記憶しています。小児歯科専門でやるなら、交通の便が良い天神だろうということで決めました。

父の跡を継ぐ

1978年父の跡を継ぎ、小児歯科専門で開業しました。父が開業していたビルの4階を私が引き継ぎ、父は新たに3階で別々の医院として開業しました。父は親子で一緒に仕事すると、将来考え方の違いで上手く行かなくなると考えたようです。私は治療中心、父は予防中心と診療内容で住み分けしていました。

診療の変遷

左右の写真で約35年前と現在のスタッフの変遷をみると、歯科医が3名から1名、衛生士が7名から4名、受付が2名から1名、技工士が1名から0名となっています。

「う蝕の洪水の時代」から

「予防の時代」へと変化したのに伴い、スタッフの減少とユニットも8台から5台と減少しました。



現在の状況

歳を取るのに従い視力や体力の衰えがありますが、う蝕の治療が減って来たのは本当にありがたいことです。予防中心なので、私よりも衛生士に頑張ってもらっています。小児歯科をやっていて、良かったと思っています。一般歯科の先生より、永く働けそうです。

70歳を迎えて

100歳まで働くわけにはいきませんので、柏木医院の将来計画をぼちぼち考えています。父から受け継いだ医院ですし、リコールで継続している子ども達も多くいますので、私の代で終わらせたくはありません。そこで、継続して行くために法人化を考えています。何年後には代表を交代して、私自身は体の続く限り週2～3回診療に携わりたいと思っています。そのためにも予約が空いている時には、上の階にあるスポーツジムでトレーニングに励んでいます。

● 会長挨拶 ●

福岡小児歯科集談会 会長 二木 昌人

〈 今からの小児歯科はどこへ行くのか？ 〉

長引くコロナ禍で、集談会も会合を開けない状況が続いています。役員会は定期的に行っていて、今後の新型コロナ変異株の状況にはよりますが、今秋くらいからは実質的活動再開ができるのではと、希望的観測を持っております。

学会やセミナーの参加がままならない中で、WEBを利用した形も多くなり、むしろ今までより聴く機会が増えた方もいらっしゃるのではと推察致します。

今回致しましたアンケートでは、インドアを余儀なくされるコロナ禍環境下で、会員の皆様がどのような媒体で日常臨床の学びをブラッシュアップをされているか、調査をさせて頂きました。

私が新人歯科医師で大学勤務だった1980年代は、小児歯科といえば特に乳歯う蝕治療と予防、そして咬合誘導がちらちらという時代でした。

これらで小児歯科医と言える時代は多分20世紀で終わって、最近の自分の臨床を再考すると、年齢も歯科疾患もカバーする範囲が広がっており、有病障害児者も受け入れています。

アメリカ小児歯科学会（AAPD）がWEBで公開しているポリシーやガイドライン、日本小児歯科学会の最近の論文や発表をレビューしながら、これからの小児歯科はどこに行くのかな？と考えているところです。

小児歯科自体、同じ専門分野でも、他と違って成長発育という時間軸の中で包括的に診るべき分野ではないでしょうか。歯周病、う蝕予防をベースにした保存修復、歯内療法、顎関節症、歯科矯正など各専門分野での最近の発展は明らかで、学会がガイドラインを作成しWEBで無料公開しているものも多いですね。

小児歯科から成人歯科へは繋がっていますので、これらのガイドラインを理解して、成長期の対応に役立たないかと試行錯誤しています。

言い換えると、成人前でのガイドラインは明確にされていないというのが現実です。他専門分野とのコラボが必要な分野なので、小児歯科学会としてのガイドライン作成は難しいのでしょうか。

小児歯科学会の臨床的講演発表は治療各論というより、症例報告や口腔機能に関わるものが多いと感じます。

今回のアンケート結果でも、会員の皆様が学んでいる分野は、う蝕予防や矯正（咬合誘導）などベーシックなものから、さらに広範囲に及んでいるようです。

私自身も、小児歯科分野は無限に学ぶことが多く、それが日々の臨床のモチベーションにもなっていると感じています。

会員の皆様も、日々好奇心と情熱を持ち続けることで、楽しい小児歯科臨床が進化していくと確信しています。

また、その中でおのずから、小児歯科はどこに行くか？が見えて来るのではないのでしょうか。



令和3年度 福岡小児歯科集談会（書面会議）

日 時：令和3年4月

令和2年度に引き続き、コロナウイルス感染拡大の影響のため、書面会議で総会に代えた。

福岡小児歯科集談会 会長 二木 昌人

（議事）

*** 令和2年度事業報告**（令和2年4月～令和3年3月） 二木会長

令和2年 4月 総会（書面会議）

11月 コロナ禍に関するアンケート発送、回収

令和3年 3月 会報「こだま39号」発行

・HP（子どもの歯Q&A）の更新

*** 令和2年度会計報告** 安藤先生（監査：勝俣先生）

*** 令和3年度事業計画**（二木会長）

・年度後半から講演会3回を予定しているが、時期は変更の可能性あり

令和3年 9月 講演会

11月 講演会

令和4年 2月 歯科医師対象セミナー

3月 会報「こだま40号」発行

*** 令和3年度予算**（安藤先生）

第39回日本小児歯科学会 九州地方会大会および総会の報告

廣田歯科医院 廣田 和子

既に会員の先生方にはお知らせしておりましたように、令和3年11月28日(日)から12月5日(日)に配信されました第39回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会の一般演題発表で、令和2年度会員の先生方に回答頂きました『COVID-19感染症に関するアンケートの結果』を、発表させていただきました。

図表の番号が違っていたことを指摘いただき、注意不足を反省しております。また、他医院の感染対策の工夫について（健診時のミラーの使い方等）、新しい情報を得たことのご意見もいただきました。低年齢児のコロナ感染も問題視される今日この頃、会員の先生方をはじめ、ポスターを見ていただいた方々に、何らかの情報や知識としてお役に立てたならと思っています。

福岡小児歯科集談会 アンケート結果

コロナ感染症の影響で、令和3年度も講演会等を開催することが出来ませんでした。そのため会員の先生方に今年もアンケートをお願いしましたところ、15名の先生方よりご回答いただきました。ありがとうございました。コロナ感染症の終息も見えず、まだしばらくはこの状況が継続されると思われるので、このアンケートの回答を今後の臨床や研修等の参考にして頂ければ幸いです。

1)、定期購読している雑誌・本がありますか？（複数回答あり）

- | | | | |
|-------------------|----|------------------|----|
| ・ 歯科時報（福岡県歯科医師会誌） | 6人 | ・ 日本学校歯科医会雑誌 | 2人 |
| ・ 月刊 小児歯科臨床 | 6人 | ・ 歯界展望 | 1人 |
| ・ デンタル ハイジーン | 6人 | ・ 歯科評論 | 1人 |
| ・ 歯科衛生士 | 3人 | ・ 小児科診療 | 1人 |
| ・ 日本歯科医師会雑誌 | 3人 | ・ 8020（8020財団発行） | 1人 |

2)、ここ1年、定期購読している雑誌・本の中で、興味のある特集がありますか？

- ・ デンタル ハイジーン 2021年 6月号 : フッ化物によるう蝕予防メカニズムの新常識
- ・ デンタル ハイジーン 2021年 12月号 : 不正咬合も予防が大切
- ・ デンタル ハイジーン 2020年 12月～2021年 3月 : 睡眠時ブラキシズム

3)、定期購読以外で、よく読む雑誌・本（仕事関係）がありますか？

- ・ 歯界展望
- ・ 萌出障害に関するもの
- ・ フッ化物応用の化学（日本口腔衛生学会 フッ化物応用委員会編）
- ・ 小児歯科カラーアトラス（町田 幸雄著）

4)、定期購読以外で、読んで良かった雑誌・本（仕事関係）がありますか？

- ・ CR修復の臨床最前線
- ・ 岡崎 好秀先生の出されたもの
- ・ 子どもたちが上手に噛める・食べられる・呼吸できるようになる本
- ・ 診療室で今日からできる 子どもの口腔機能を育てる本
- ・ 歯の外傷で小児が来院したら（宮新 美智世 著）
- ・ 成長期の叢生を考える（矯正 Year Book 2021, 別冊 Quintessence）
- ・ 人は話し方が9割（すばる舎）
- ・ 絵カードを使った障害者歯科治療
- ・ 埋伏歯の保存治療ストラテジー
- ・ MFTの実際（上巻、下巻）（高橋 治、高橋 未哉子 著）
- ・ 視覚支援の考え方と実践（緒方 克也 著）
- ・ 良い歯を育てる食生活（昭和大学歯学部 小児成長歯科学教室編）
- ・ 障がい者の矯正歯科治療（森下 格 著）

5)、診療のガイドラインとして読む雑誌・本がありますか？

- ・ 顎関節症治療のガイドライン 2020
- ・ CO₂レーザー臨床
- ・ 歯科小手術ベーシック
- ・ おくすり110番 (Web)
- ・ ペリオドントロジーダイジェスト JET system
- ・ ループを用いない歯の移動法
- ・ 日本小児歯科学会雑誌
- ・ 健康教育学会雑誌
- ・ 日本口腔衛生学会雑誌
- ・ 歯の外傷で小児が来院したら (宮新 美智世 著)
- ・ LAS レギュラーコースのシラバス
- ・ 成長発育に関するもの ・ 萌出・交換に関するもの ・ 歯数の異常に関するもの
- ・ フッ化物応用の化学 (日本口腔衛生学会 フッ化物応用委員会編)
- ・ 乳歯列期における外傷歯の診断と治療 (木村 光孝、その他編集)
- ・ 笑気吸入鎮静法 (緒方 克也 著)

6)、ここ1年、参加した学会・セミナー (Web 配信を含む) がありますか？

(人数記載がないものは1人の記載を示す)

- ・ 日本小児歯科学会 全国大会 11人
- ・ 日本小児歯科学会 地方会 7人
- ・ 日本歯科医学会 5人
- ・ 矯正学会
- ・ 日本口腔衛生学会 3人
- ・ 九州口腔衛生学会
- ・ プレオロソ、矯正、end、歯周病、CR 修復、消毒感染予防等の Web セミナー
- ・ 令和3年 全国学校保健・安全研究大会 (オンデマント)
- ・ 第71回 全国学校歯科医協議会 (オンデマント)
- ・ 第82回 全国学校歯科保健研究大会 (オンデマント)
- ・ 成育歯科研究会 ・ 小児歯科オンラインセミナー
- ・ 福岡県歯科医師会、福岡市学校歯科医会、歯科衛生士会
- ・ 口から食べる幸せを守る会 第9回 全国ウェブ大会
- ・ オーラルフレイル研修会 (福岡県歯科医師会)
- ・ 咬合機能研究会 リモート講演会 ・ 日本外傷歯学会 西日本地方会

7)、福岡小児歯科集談会以外で、属しているスタディーグループがありますか？

(人数記載がないものは1人の記載を示す)

- ・ 月曜会 (※1) 3人
- ・ NPO 法人 ウェルビーイング 2人
- ・ 成育歯科医療研究会
- ・ バイオプログレッシブスタディクラブ
- ・ 咬合機能研究会
- ・ 有床義歯学会
- ・ IPOI インプラント研究会
- ・ 日本全身歯科研究会
- ・ 国際歯周内科学研究会

※1 : 毎月第3月曜に会館で発表会をしています。会員は、発表が原則で聞きにだけ来られる方は、辞めていかれるようです。

アンケート結果に対するコメント

ふたつき子ども歯科 二木 昌人

コメントですので、主観的になっていることを前置きいたします。

個人的には、歯科の新刊書や雑誌系に関わらず、WEB で内容や目次が分かるので、結構頻回にチェックしてWEB 経由で購入しています。月刊誌では興味ある特集がある場合に、不定期に購入するようにしていますが多くはありません。

雑誌連載の内容をまとめて1冊の本にしている場合もあるので、そちらがトピックが絞られてコスパが高いかと思います。

日本歯科医師会雑誌や日本学校歯科医会雑誌は、自動的に定期購読になっていて最近の流れを知る上では役に立っていますが、ある程度たまったら処分しています。

会員の先生方の学会参加の状況ですが、ここ2年のコロナ禍の影響で、WEB 開催の参加が多いようで、私もむしろ今までより学会やセミナー聴講の機会が増えました。

自宅でも参加できて、移動の時間や経費がかかりませんので、ポストコロナでもリアル+WEB のハイブリッド開催が増えそうですね。主催者側は手間はかかりますが、参加者が増えることで収支バランスが良くなるのではないのでしょうか。

小児歯科は成人になるまでの成長発達期の歯科ですから、時間軸や成長発育変化を考慮することが必須です。その中で、かつてはう蝕の治療やその時点での予防という静的内容がメインの時代もありましたが、口腔機能の健全な発育支援を見据えた中期的管理が重要と思います。

例えば、3歳で多数歯乳歯う蝕で初診の場合、目の前の問題も無視できませんが、私の場合、その患者さんが15年後、高校卒業した時に虫歯や歯肉、歯列咬合の問題がない状況を、小児歯科卒業の目安にイメージします。

その初診時の患者さんが、今後15年間の中で、当面何がプライオリティーか考えて、管理や治療をスタートします。

最近、咬合誘導という言葉で以前より聞かなくなったような気がしますが、どうでしょう？

もともと概念的な用語で、治療各論となると、特に動的咬合誘導では矯正との境界が不明瞭でした。

永久歯列になるまでの間、過剰歯、欠如歯、転位歯、埋伏歯、交換期障害など、小児歯科学会でも色んな症例が提示されており、これらをどうマネジメントして健全歯列に誘導するかは、成長期を診る小児歯科の役割だと思います。

ただし症例によっては、口腔外科的およびより複雑な矯正技術が必要になります。小児歯科医がすべて行う必要はないと思いますが、その場合、他の専門医との協働が必要になります。

包括的にかつ継続的に小児を診るという意味では、小児歯科医をベースの定期管理が良いと思います。

そう考えると、やはり小児歯科分野に関わらず、成人歯科分野も含んだ広い範囲の知識や診断力を学ぶことで、よりクオリティーの高い小児歯科医療を提供できるのではと考えます。

もう一つ、歯科医師自身も含めスタッフ力を上げる方策としては、いわゆる歯科疾患予防の知識や技術に留まらず、患者さんとのコミュニケーションやモチベーションを高める技法を学び続けることも必要で、関連する書籍も歯科分野に関わらず、少なからず出版されていますね。

コロナ禍でアウトドア活動が制限された分、学会や書籍を読む時間が増えたかもしれません。その流れで皆さん、さらに勉強を続けてみてはどうでしょう。



会員の皆さんへの伝言と要望

— アンケートより —

- ・ 小児歯科は、近未来的にどのような方向性・コンセプトを持って進むのが良いか？意見を聞きたい。
- ・ う蝕予防や口腔機能の改善が、小児歯科の主な業務になる時代が来たなと思います。
- ・ 専門医更新で、指導医の欄があります。集談会で指導医を紹介していただけると助かります。

編集後記

一石二鳥？



昨年初秋、以前一緒に勤務していた同じ年の歯科衛生士さんと久しぶりに会って、昔話や近況報告に盛り上がり、近年の運動不足にお互い悩んでいる話になりました。彼女は、女優さんが宣伝しているリングフィットを購入し、娘さんと使用しているとのことでした。運動になるし、ゲーム性もあり気分転換にもなり一石二鳥と、私にも勧めてくれました。早々購入を決めたものの、どこで買うのかわからず、姪にネットで注文してもらいました。人気があるので”待ち”があるかもとのことでしたが1週間で届き、箱を開けて見ると説明書はなく、QRコードが付いていました。そのまま1か月放置。

冬休みに姪に組み立ててもらい、簡単に使い方を教えてもらいましたが、使ったのはお正月休みの最終日1度だけでした。先日、姪から「リングフィット使っている？」との電話。早く一石投じなければと思う今日この頃です。

廣田歯科医院 廣田 和子